

ク  
自  
分  
義  
我  
國  
ニ  
行  
ハ  
ル  
ル  
方  
式  
ニ  
從  
ヒ  
先  
ツ  
別  
紙  
ノ  
通  
リ  
宣  
誓  
ヲ  
爲  
シ  
タ  
ル  
上  
次  
ノ  
如  
ク  
述  
致  
シ  
マ  
ス

極  
東  
國  
際  
軍  
事  
裁  
判  
所

亞  
米  
利  
加  
合  
衆  
國  
其  
他

荒  
木  
貞  
夫  
其  
他

宣  
誓  
供  
述  
書

供  
述  
者  
櫻  
井  
德  
太  
郎

一 私櫻井雄太郎ハ元陸軍少將デアリマシテ明治三十年六月二十一日生レ。  
現住所ハ宮崎縣兒湯郡都農町

昭和十八年九月ヨリ昭和二十年二月迄第五十五師團ノ歩兵團長トシテ印  
緬國境「アキヤブ」方面ノ防衛ヲ擔當シ次デ「ビルマ」國防軍最高顧問  
トシテ從事シ「ビルマ」國防軍叛亂直後、昭和二十年四月五日歩兵學校  
附ヲ命ゼラレ次デ師團長トナリ終戦ニ及ビマシタ。

二 木村大將ガ着任セラレタノハ昭和十九年九月中旬デアリマシテ「イン  
パール」作戦失敗後デアリマシタ。私ハ櫻井支隊長トシテ歩兵三大隊  
砲兵一大隊騎兵聯隊ヲ基幹トスル約三千七百名ヲ指揮シ「アキヤブ」正  
面ノ防衛ヲ擔當スルコトトナリ第五十五師團主力ハ「バセイ」方面ニ  
轉進シマシタ。

三 木村大將ハ着任後特ニ軍紀志氣ノ振作、民心把握ニ勵シ強調訓示セラレ其  
後更ニ數回同趣旨ノ訓示ガアリマシタ。

吾々ハ其ノ意圖ヲ識シ嚴格ナル軍紀コソ無言最高ノ民心把握タルコトヲ  
部下ニ徹底シ自肅自戒此點ニ勵シアハ最大ノ努力ヲ傾注シ軍紀ハ極メテ  
嚴正デシタ。

四 木村大將ハ「ビルマ」人トノ親善融和ト民生ノ安定ニハ非常ニ熱心デア  
リマシテ「ビルマ」人ニ對スル心得ナル冊子ヲ編纂シ線下ノ軍隊ニ  
配布セラレマシタ。私共ハ之ニ悉キ部下ヲ指導シ私ノ守備區域内デハ

一兵ニ至ル迄威ニ「（ビルマ）人ニ對スル心得」ニ基キ注意シテ行動シ  
 民生ノ慰遺ヤ民衆ノ慰符等ハ一ツモアリマセンデシタ。又民衆生活向  
 上ノ爲メ現住民ニ對シ農器具ヤ貸ヲ作ツタリ舟ヲ作ツテ與ヘタリシテ居  
 リマシタノデ「ビルマ」人ハ非常ニ喜ンデ居リマシタノデ日緬間ノ友情  
 ハ濃ヤカデアリマシタ。從ツテ後方輸送ヤ第一線ノ糧秣、患者ノ輸送  
 デサヘ現地人ノ自發的意思ニ基ク心カラノ協力ヲ受ケマシタ。日本軍  
 ハ特ニ「ビルマ」人ノ宗教ヲ尊重保護シテ居リマシタノデ現地民トハ極  
 メテ融和シテ居リマシタ。  
 海岸正面デハ「ビルマ」ハ「ビルマ」人ガ守ルト言ツテ現住民ガ海岸警  
 戒ヲヤツテ居リマシテ敵ガ上陸シタ時ニハ信號等シテ報告シテ呉レマシ  
 タ。コトガ一度ハ「インアン」附近ノ村長ガ上陸スル敵ヲ防害シテ戦死シタ  
 コトガアリマシタ。  
 五  
 一九四五年二月私ハ「ビルマ」國防軍最高顧問トシテ赴任スル爲メニ「  
 マキャブ」方面ヨリ「ラングーン」ニ参リマシタガ此地域ハ前任地「ア  
 キヤブ」方面トハ事情ガ異ナリ前任地程治マハ良好デハアリマセンデシ  
 タ。當時「ビルマ」國防軍ノ主力ハ「ヘンザダ」ニアリ「トングー」  
 「ベグー」タトン」附近ニ有力ナル部隊ヲ配置シテアリマシタ。  
 而シテ同年三月十五日我軍ト「ビルマ」國防軍トハ作戰協定ヲ締結シ我  
 軍ハ「ビルマ」國防軍ノ出陣式ヲ行ヒ之ヲ祝セマシタ。然ルニ我軍ノ

戰況日々ニ不利トナルニ加ヘ英印軍ノ宣傳等モアリ「ビルマ」國防軍ハ  
一九四五年三月末突如叛亂スルニ至リマシタ。私ハ事態急變ニ對シテ  
直チニ木村方面軍司令自ニ御會ヒシテ如何ニ處置スベキカラ御相談シマ  
シタ處木村大將ハ從來ノ日緬間ノ親和協力ヲ思ヒ彼等ノ立場ヲモ考ヘラ  
レ之等ニ對シテ我軍ガ報復的ナ行動ヲ執ルコトハ絶對ニイケヌ歸順スル  
モノハ解往ヲ問ハズ保護シナケレバナラナイ、唯作戰上必要ナル最小限  
度ノ討伐ダケ行フ様命ゼラレマシタ。

Def Doc No. 1371

昭和二十二年（一九四七年）六月十四日於 宮崎縣兒湯郡都農町

供述者

櫻井 徳太郎

右ハ當立會人ノ面前ニア宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日於同所

立會人は 恆達 見

Def Doc No. 1371

宣  
書  
善

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ諱秘セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ善フ

署名捺印  
櫻井 徳太郎